

日本人英語学習者の多義語使用の実態と語彙指導についての一考察*

林 田 朋 子**

A study of Japanese learner's usages of English polysemy of basic verbs and vocabulary teaching

Tomoko HAYASHIDA**

キーワード：学習者コーパス、多義語、語彙指導

1 はじめに

中学校学習指導要領(2017)においては、コミュニケーション能力の向上にさらに重きが置かれ、必修語彙数の増加に加え、使える語彙力を身につける重要性がうたわれている。しかし、日本人英語学習者の語彙習得に関しては、中学校で学習する基本動詞であってもそれを十分に使いこなせている状態にないことが指摘されている(Altenberg & Granger 2001)。この原因の一つとして、語彙学習及び語彙指導の目的が、より多くの語彙を覚えることに偏っており、英語学習における大きな負担となっている現状が考えられる。基本動詞の多くは一つの単語が複数の意味を持つ多義語であるが、学習者が訳語の暗記に頼った学習方法を用いた場合、多義語のもつ複数の意味に遭遇するたびに、文脈に応じて新たな意味を記憶せざるをえず、効果的な語彙習得を阻害する要因のひとつとなっているのではないだろうか。溝端(2006:4)は、語彙指導に関して、発音と訳語を与えるだけでは十分ではなく、語彙がもつ様々な情報を活性化させることが重要であると述べており、新たな語彙とどのように出会うかは、その後の語彙の習得に大きな影響を与えることを指摘している。豊かな語彙知識とそれを使いこなす能力はコミュニケーション能力を養成することに不可欠であろう。したがって、英語を指導する教師が英語学習者の多義語理解の実態と多義語の構造について理解し、必要に応じて学習者の理解を手助けすることが必要であると考えられる。本稿では、学習者コーパスを用いて日本人英語学習者の多義語の使用実態を考察し、問題点を指摘したうえで、認知言語学の理論を応用した語彙指導方法を提案することを目的とする。

第2章では、日本人英語学習者の基本動詞の使用状況についての先行研究を概観する。第3章で

は、学習者コーパスを用いて、日本人英語学習者による多義語動詞drawの使用実態を考察し、日本人の語彙習得方法についての問題点を提示する。第4章は、drawの多義構造を活用した語彙の教授方法について論じる。第5章はまとめである。

2 学習者コーパスを用いた基本動詞に関する先行研究

多義語の多くが基本動詞であることから、まず日本人英語学習者の基本動詞の使用実態に関する先行研究を概観し、その特性や問題点を考察する。先行研究で用いられているコーパスは、日本人中高生の英作文コーパスであるJapanese EFL Learner Corpus (JEFLL)である。JEFLLコーパスとは、日本の中学1年生～高校3年生の英語学習者を母集団とした英作文コーパスであり、基本動詞を検索し、動詞の共起環境を観察することにより、中高生の基本動詞の使用状況を明らかにすることができる(投野2007)。近年、学習者コーパスを用いた基本語の使用状況に関する研究がなされるようになってきているが、本稿では基本動詞である「make」、「go」、「基本動詞を用いたコロケーション」の使用状況についての先行研究を概観する。

福富(2012)は、JEFLLコーパスを用いて、中学生の英語学習者の基本動詞makeの使用状況における問題点を浮き彫りにし、母語の影響と中学校検定教科書におけるmakeの取り扱いとの関連性を指摘している。中学生の「make+目的語(名詞)」の使用方法において、文法的には間違いではないが、語彙的に不自然な組み合わせ、例えば「make memory」「make rice」など、を使用する傾向があることを取り上げ、それが日本語の「思い出を作る」「コメを作る」というように「make=作る」と日本語で理解していることからの母語の転移であることを指摘している。また、

* Received December 21, 2018

**長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 外国語学科 Faculty of Contemporary Social Studies Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 850-0092, Japan

英語検定教科書における動詞makeの取り扱いを考察し、動詞makeの多義性や、その中核的意味や派生的意味を含めた情報が不足していることを指摘した上で、これらに配慮した教科書の使用や英語指導の必要性を述べている。同様に、今田(2014)は、JEFLLコーパスを利用し、日本人英語学習者の動詞goに関する連語のエラーについて学年別の習得状況を研究している。その中で、「GO to + V ing」とするエラーが中学生の英作文に多く見られ、高校生になっても観察されることから、学習を継続しても基本動詞であるGOの使用方法が十分に習得されていないことを明らかにした。これについて、英語検定教科書を調査した結果、教科書では「GO to 場所」の組み合わせが大半であり、「GO+ing」という連語が扱われていないことが原因の一つであることを指摘した上で、指導者が、基本動詞がどのような語と同時に使用されるかを含めた、語彙知識を深める活動を行う必要性を示唆した。基本動詞を用いた動詞・名詞コロケーションの使用については佐竹(2015)がある。佐竹は、JEFLLコーパスとNICEコーパス¹を用いて、学習者による動詞・名詞コロケーションの過剰使用、過小使用、また不自然な動詞・名詞による組み合わせがあるかどうかについて調査を行った。調査の結果、学習者のコロケーションの使用は母語話者よりも少なく、「主語+become + ~years old」のような母語話者による使用が低頻度である不自然な動詞・名詞の組み合わせの割合は、習熟度が上がるにつれ増加していることを明らかにした。佐竹は、これらの不自然さの原因が英単語の直接的な日本語訳による影響であると指摘したうえで、単語を量的に増やすだけでなく、単語の使用について質的な指導を行うことを主張している。

これらの先行研究は、日本人英語学習者が、基本動詞についての理解が浅く、使いこなすことができていることを示している。また、その原因が英単語に日本語訳を当てはめる学習方法に起因する母語の干渉や、教科書による語彙の取り扱われ方、また単語の中核的な意味を考慮するなどの質的側面を備えた語彙指導の不足であることが示唆されている。次章では、これらの先行研究をふまえて、初中級英語学習者が多く使用する傾向にある動詞drawを例として、その多義性に焦点をあて、学習者の使用状況と問題点を明らかにする。

3 日本人英語学習者による動詞drawの使用状況

3.1 英和辞書における動詞drawの記述

まず、学習者が語彙習得に使用する代表的な辞書の一つである『ウィズダム英和辞典第3版』における動詞drawの記述をみてみよう(表1)。表1の辞書記述によれば、drawの意味は合計21個に及んでおり、複数の意味をもつ多義語であることがわかる。これらの意味記述を観察すると、意味間の関連性が希薄であるものが多い。例えば、意味1〔〈絵など〉を描く〕、意味3〔〈中のものを〉〜を取り出す〕、意味6〔〈注意・興味などを〉引く〕を比較すると、三つの意味はまるで同音異義語であるかのような印象を受けることがわかる。新しい文脈に遭遇するたびに、異なる訳語を探し出し記憶することは、英語学習者にとっての語彙習得を困難なものにしてしまうおそれがある。次節では、複数の意味を持つ多義語drawについて、日本人英語学習者が実際にはどのように使用しているかを、学習者コーパスを用いて考察する。

【表1】『ウィズダム英和辞典第3版』における動詞drawの記述

<p>【他動詞】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 〈線・円など〉を引く、〈絵など〉を描く 2. 〈〜の方に〉〈人・物〉をゆっくり引く、そっと移動させる 3. 〈中のもの〉を取り出す、引っぱり出す、〈剣など〉を抜く 4. 〈批判、賞賛など〉を得る 5. 〈比較・区別など〉をする、〈結論など〉を引き出す、導き出す 6. 〈注意・興味などを〉引く 7. 〈金〉を引き出す 8. 〈息・液体など〉を吸い込む 9. 〈カード・くじ〉を引く 10. 〈荷車など〉を引く 11. 引き分けにする 12. 〈人〉にもっと語らせる 13. 〈水深〉の喫水である 14. 〈風呂〉にみずをはる 15. 〈ゴルフで〉〈ボール〉をドローさせる <p>【自動詞】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 線を引く 2. ゆっくりと移動する 3. 煙をとおす 4. 〈トランプで〉特定のカードを引く 5. 〈試合で〉引き分けになる 6. 〈ゴルフで〉〈ボール〉がドローする
--

3.2 日本人英語学習者の動詞drawの使用実態

日本人学習者が使用する辞書記述から、動詞

drawは複数の異なる意味を持ち、習得が難しい単語であると想定された。このような動詞drawについて、学習者による実際の使用実態がどのようなものであるかをJEFLEコーパスを用いて見てみよう。【表2】から【表5】は、動詞drawを検索し、動詞の共起環境を示したものである。動詞drawの原形 (draw)、過去形 (drew)、動名詞 (drawing)、過去分詞 (drawn) の右3語以内の共起語の検索結果である。[JP] は日本人中高生が英語で表現できない場合に用いた日本語表現を示している。検索結果から、すべての活用形を含む動詞drawの共起語の中でも「picture」の使用頻度が最も多く、検索結果42例中、13例が後続表現に「picture」を共起させていることが明らかになった。また、【表7】は前後の文脈を加味して、すべての活用形を含む動詞drawに後続する表現を意味ごとに分類した結果である。42件中36件が、「～を描く」という意味でdrawを使用していることを示している。つまり、日本人中高生の英語学習者は動詞drawを「絵を描く」の意味で単義語的に理解しており、drawがもつ他の複数の意味を習得しているとは言い難いことを示している。では、母語話者の動詞drawの使用状況とはどのように違うのだろうか。アメリカ人母語話者による英語使用データの集積体であるCorpus of Contemporary American English (COCA) を用いて、英語母語話者による動詞drawの使用実態を調べた結果である【表6】²と比較してみよう。COCAの検索結果によれば、draw+attention (注目を引く)、draw a line (線を引く)、draw a conclusion (結論を出す)、draw breath (息をつく)、draw people (人を引きつける)、が出現頻度の上位5位までに観察された。日本人英語学習者が「絵を描く」という意味で動詞drawを主に使用している一方、母語話者は具体的な意味から抽象的な意味に至るまで幅広く使用していることがわかる。英語学習者がdrawを単義語的に「絵を描く」と覚えている場合には、drawがもつ複数の意味間の関連性を見出すことができず、COCAの結果が示すような母語話者が用いる自然な表現方法を学ぶことが難しいものと考えられる。次節では、学習者が主に新出語彙に出会うきっかけとなる、文部科学省検定教科書(以下教科書)における、動詞drawの記述を考察する。

【表2】 JEFLL コーパスにおけるdraw+共起語 (右3語以内)

draw	pictures well.
	[JP:CD-ROMの名前].
	comic.
	[JP:背景], to make [JP:音響], [JP:小道具].
	this [JP:hyoumenn].
	mewes.
	pictures.
	of [JP:Shomuni] .
	each letters in summer vacation and we send them to our [JP:komonno] teacher.
	it again.
	picture to tell other people that he had seen in the sea.
	pictures very well.
	a human's face.
	my money anywhere.
on it something.	

【表3】 JEFLLコーパスにおけるdrew+共起語 (右3語以内)

drew	fish and [JP:Kaki] .
	an apple and lemon and wine.
	[JP:kanban] and [JP:irasuto_boodo].
	big picture one og the [JP:rittai_sakuhin].
	a [JP:koshou_no_bin] I think it's very cute, so it's my favorite thing.
	up a plan for a Diri Go Emperor satisfied Urashima He at_last became
	[JP:ダンボール] black and made [JP:コース。]
	first and shot.
	them.
	pictures and wrote sentences that explain each scene of the story .
	a picture about princess of kaguya and [JP:光源氏].
	a lot of pictures and decorated our classroom.
	it by [JP:ペンキ].
	are showed at a school festival , where you can see the difference between high school students' and junior high school students'.
	, too.

【表4】 JEFLLコーパスにおける動名詞drawing+共起語 (右3語以内)

drawing	.
	pictures.
	pictures.

drawing	pen , stationary , and my [JP:好きな人の] pen.
	pens , screen tones.
	pictures , singing , having a Sumo game with a bear and_so_on.
	picture , and it's nice to be with my band members.
	pictures for little children.
	on the wall. and we could n't do.

【表5】 JEFLL コーパスにおける過去分詞drawn+ 後続表現

drawn	[JP:haisenzu] of the railway in Kanto. , and words of songs I have written ... and_so_on.
-------	---

【表6】 COCAにおける母語話者による動詞drawの使用状況

共起語	トークン頻度
1. ATTENTION	4409
2. LINE	2474
3. CONCLUSIONS	1262
4. BREATH	1161
5. PEOPLE	949
6. LINES	698
7. BLOOD	629
8. PICTURE	488
9. CRITICISM	472
10. CROWDS	428
11. CONCLUSION	413
12. DISTINCTION	390
13. INSPIRATION	388
14. PICTURES	382
15. CROWD	372

【表7】 JEFLL コーパスにおけるdraw+共起語 (右3語以内)

drawの共起語	トークン頻度
a picture/pictures	13
文脈上「絵を描く」という意味で用いられていると判断できる共起語	23
その他 (moneyなど)	6

3.3 教科書による動詞drawの記述

本節では、日本人英語学習者の語彙理解に影響を与えていると考えられる教科書による動詞

drawの語彙の取り扱いを考察する。考察対象として、中学生が使用する代表的な教科書である『New Horizon English Course 1~3』と『New Crown English Series 1~3』を参照した。まず『New Horizon English Course 1』の例文(1)を見てみよう。動詞drawは「コアラの絵を描く」という意味で、中学1年生の教科書で初めて導入されている。その後、動詞drawは中学2、3年生の教科書『New Horizon English Course 2~3』には既習語彙としてのみ巻末に記載されるのみで、動詞drawの他の意味や用法に触れている箇所は見受けられない。次に、『New Crown English Series 1』における動詞drawの記述について見てみよう。本教科書では、リスニングアクティビティーの中で、【図1】の絵を提示し、内容に合う単語(draw)を選ばせる問題の中で動詞drawを導入している。リスニングの答えは、(2)のKen can draw a picture (ケンには絵を描くことができます。)である。どちらの教科書においてもdrawを「絵を描く」という意味で記述している点で共通している。『New Crown English Series』でも同様に、中学2、3年生の教科書の中では、動詞drawの記述は見受けられない。このことは、日本人中高生の英語学習者が教科書以外で英語に触れる機会がない場合には、drawは「絵を描く」という意味で主に学習される傾向にあることを示唆している。2つの教科書で異なるのは、『New Crown English Series 1』では、例文(3)が示すように、「おみくじを引く」という意味でもdrawを使用している点である。このように、同じ動詞が「絵を描く」「おみくじを引く」のように、日本語に訳すと同音異義語のように思える単語を導入する際には、教師がdrawを多義語であると認識し、学習者がdrawの複数の意味間に共通性や関連性を見出せるような指導をすることが必要であろう。

(1) My sister often **draws** the koalas in the trees.
(『New Horizon English Course 1』Unit 6 Part 3 p.70)

(2) Ken can **draw** a picture.



【図1】
『New Crown English Series 1』
Lesson7 p. 89

(3) I hoped for good luck, and I **drew** an *omikuj*.
 (幸運を願って、おみくじを引きました。
 『New Crown English Series 1』 Lesson9 p.117)

4 多義語の意味ネットワークを活用した語彙指導の提案

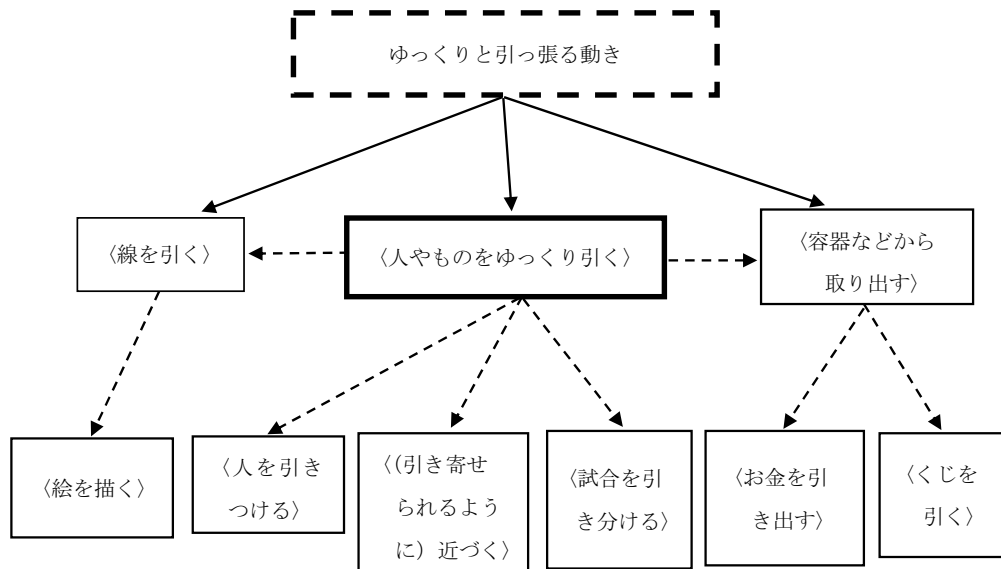
4.1 認知言語学と語彙指導・学習への応用

前章では、学習者コーパスによる動詞drawの検索結果から、日本人英語学習者が動詞drawを「絵を描く」と一義的に理解する傾向にあり、学習者が使用する教科書による語彙記述も、多義語がもつ情報を十分に反映したものにはなっていないことを明らかにした。多義語の構造は、母語話者が持つ当然の知識と考えられるが、学習者の多義語習得にあたっては、母語で記憶した字義通りの意味が影響し、派生的な意味については語彙のカテゴリーに含まれることがなく、学習者の長期記憶に組み込まれない可能性があることが示されている(今井1993)。近年このような問題点を克服する手立てとして、認知言語学の理論を語彙学習や語彙指導に応用する方法が研究されている。Littlemore (2009) は、語の多義性を含む語の質的側面と、多義語の意味の拡張に関する知識を語彙習得に応用するに際して考える二つの側面として捉え、英語指導に活用することの重要性を述べている。これに関連して、Azuma (2005) は日本人学習者の語彙力における比喩の理解と運用能力に関する調査を行い、多義語能力とメタファー理解の間に高い相関関係があることを明らかにしている。また、外国語学習においても、言語の壁

を越えた、人間に備わる認知能力の一つである比喩のメカニズムを理解し援用することで、より深い言語処理を促し、語彙習得を効率的なものにすることができると考えられている(荒川・森山2009)。先行研究が指し示すように、多義語の複数の意味間におけるメタファー的な意味拡張及び、多義語がもつカテゴリー構造に関する知識や能力は、学習者にとって重要度の高いものであることがうかがえる。次節ではdrawの意味ネットワーク(林田2019a)を語彙指導に活用し、動詞drawを導入する指導方法を提案する。

4.2 多義語の意味ネットワーク

林田(2019a)では、認知言語学の枠組み(Langacker 1987, 1990, 1999)を用いて、動詞drawの多義構造を意味のネットワークとして提示した。【図II】は、動詞drawは、「人やものをゆっくりと引く」を典型的で中心的な意味であるとし、例えば「線を引く」という意味は、この中心的な意味から、メタファーやメトニミーなどの比喩を介した意味拡張の結果生じた派生的意味であることを示している。また、動詞drawの複数の意味全ては、それぞれの意味の詳細を捨象した抽象的意味である「ゆっくりと引っ張る動き」という共通の要素(スキーマ)を有していることも示している。本章では動詞drawを例として、意味ネットワークを図式化したもの【図II】を用いる。【図II】は(林田2019 投稿中)を語彙指導用に簡略化し作成したものである。



【図II】動詞drawの意味ネットワーク

4.3 意味ネットワークを活用した語彙の教授方法

本節では、中学校レベルの英語学習者を想定し、多義語の複数の意味を関連づける意味ネットワークを活用した動詞drawの指導方法を提案する。JEFLCコーパスの検索結果から、中高生の英語学習者は動詞drawを、主に「絵を描く」という意味で記憶していることが明らかになった。そこで、学習者が語彙のネットワークを経験的に形成するプロセスの始点としては、「絵を描く」という意味を用いるのが現実的であると考えられる。「絵を描く」という意味を出発点としながら、他の複数の意味間の類似性を見つけ出す作業を通して意味の相互関係を学び、学習者自身が共通的な意味である「ゆっくりと引っ張る動き」を自然に導き出すことができる活動を取り入れる。活動を行う際の留意点としては、意味拡張の原理であるメタファーやメトニミーなどの用語を使用することで、語彙習得の苦手意識を高める恐れがある点である。指導者の判断により、メタファーは「わかりにくいものをわかりやすいもので示すこと」、メトニミーは「目印となるものでたどること」など理解しやすい言葉を用いる必要があるだろう。低学年であれば、複数の意味間の「似ているところはどこか」といった類似点を探すという意味で意味拡張を説明することも可能であると考えられる。体系的な語彙のネットワークを身につけることを目的とした語彙指導を、以下①から⑩までの活動を通じて行う。本授業プランでは、中学校教科書で動詞drawを「絵を描く」という意味で既習済みであることを前提としている。日本人中学生が中心的な語義として記憶していると考えられる「絵を描く」という意味を出発点として、drawの複数の意味である「線を引く」、「ものをゆっくりと引く」、「くじを引く」、「(ATM)からお金を引き出す」、「人を引きつける」、「試合を引き分ける」の意味間の関連性を見つけ出す作業を通じ、学習者が自ら複数の意味全てに共通するスキーマ的な意味である「ゆっくりと引っ張る動き」を経験的に導き出すことを目的としている。授業時間は50分を想定し、必要に応じて絵カードや写真、意味ネットワークを活用したワークシートなどを使用する。

[授業プラン]

対象：中学1～2年生

授業時間：50分

使用教材：マグネット付きの意味カード（日本語）、絵カード、写真、ワークシート
 板書計画：黒板の右側に、空欄にした意味ネットワークの拡大図を掲示する。その横に、drawの複数の意味（日本語）カードをばらばらに貼り付けておく。

- ①「Can you draw a picture?」と生徒に聞いて、「絵を描く」という意味を思い出させる。黒板に掲示しておいたdrawの他の複数の意味を指し示し、動詞drawには、実は他にも多くの意味が存在することを示す。これらの意味の関連性を探し、全ての意味に共通する大きな意味（スキーマ）を導き出すことが、授業の「めあて」であることを明示する。
- ②「draw a picture」と言って、教師がペンで白板などに絵を描く。生徒にも同じように絵を描かせる。
- ③教師が白板に「draw a line」と言いながらA地点からB地点への直線を書き、〈ペンや鉛筆で線を引く〉という視覚的イメージとその音韻要素を定着させる。生徒に実際に「draw a line」と言いながら線を何本も引くことを経験させる。
- ④「draw a line」と「draw a picture」の間にある類似性について生徒に気づかせる。どちらも鉛筆をゆっくりとひっぱる動きを伴っており、その結果として「線」や「絵」が描かれていることを簡単に説明する。黒板の意味ネットワークの空欄部分に、「絵を描く」と「線を引く」の意味カードを貼り付ける。
- ⑤次に、教師が教室にあるカーテンをゆっくりと引きながら「draw the curtains」と言い実際にカーテンを閉める。生徒にも同じようにカーテンをゆっくりと閉めさせる。ここでも、カーテンを閉める行為が描く軌道と、ペンで線を引いたときに描き出される動線のイメージを視覚的に提供できる絵カードなどを利用する。
- ⑥箱に入ったくじを実際に生徒に引かせながら、「draw the lottery」の「くじを引く」の意味を提示する。動詞drawの、「容器の中から引き出す」という意味と①～⑤までに学んだ意味との類似点を探させる。
- ⑦生徒が、スキーマである「ゆっくりと引く動き」に慣れてきたら「draw money from the bank」と言いながら、お金をATMから引き

出す様子を示す。「容器の中から引き出す」という動きの中で、「ATM」が「容器」であり、お金を容器であるATMから「ゆっくりと引き出す」状況を絵カードなどを用いて指し示す。「お金を引き出す」が黒板の意味ネットワークの中でどこに位置するかを、生徒に尋ねながら貼り付ける。

- ⑧生徒がよく知っている歌手のコンサートの絵を見せながら、「draw a crowd」を導入する。例えば、「Arashi's concert drew a crowd last weekend.」といいながら写真を見せる。有名な歌手のコンサートが、多くの人々を引き寄せる様子を見せる。生徒のひとりをあてて、「人を引きつける」の意味カードを意味ネットワークに貼り付けさせる。
- ⑨AチームとBチームが2対2で引き分けているイラストを見せる。2つのチームの点数がまるで綱引きをしているように拮抗していることを示す。The team A and the team B drew 2-2.」と言いながら、「引き分ける」の意味を導入する。
- ⑩生徒にそれぞれの意味のどの部分が類似していたかをグループで話しあわせて、部分的に空欄にした意味ネットワークの図を配布し、空欄を埋めて意味ネットワークの図を完成させる。
- ⑪drawの複数の意味を意味ネットワーク上に示した後で、全ての意味に共通する「大きな意味」は何かをグループで話しあわせる。「ゆっくりと引っ張る動き」が全体を統括する大きな意味であることをクラス全体で確認して、意味ネットワークに書き入れる。
- ⑫最後に教師が、意味ネットワークの簡単な解説を行い、多義語の複数の意味はお互いに関連し合っていること、また複数の意味全てに共通する意味が存在することを改めて説明する。

①～⑫までのプロセスをすべて行うことが難しい場合には、生徒のレベルや習熟度に合わせて、意味拡張のどこまでを導入するかを状況に応じて選択する必要がある。また、このような語彙の授業をすべての多義語に対して行うことは、学校教育の現場においては現実的ではないと考える。そこで、このような多義語理解を促す授業を、学期に一度だけ特別授業として行うことを提案したい。コミュニケーション能力を高めるためには、

豊かな語彙知識が不可欠である。英語学習者が多義語の複数の意味がネットワークを構成していること、また全ての意味に共通した抽象的で包括的な意味が存在することを英語学習の初期段階で理解しておくことは、その後の英語学習を根底から支える基盤となるだろう。基本動詞の中でも、日本語訳にすると意外な意味をもつ多義語については、教師が説明できる力を養い、授業に活用することも必要であると考えられる。

5. 結語

本稿では、学習者コーパスを用いて日本人英語学習者の多義語の使用実態について考察した上で、その問題点を指摘した。解決策の一つとして、認知言語学を基盤とする多義語の意味ネットワークを活用し、学習者が自ら経験しながら意味の相互関係や共通の意義を見出す語彙指導法を提案した。英単語の訳語と発音を提供することに偏りがちな語彙指導に、新たな側面を提供できたことは意義あるものであると考える。しかし、コーパス分析におけるdrawの使用状況については統計的手法を用いた詳細な分析を行うことが必要である。また、意味ネットワークを活用した語彙指導の効果についてはより詳細な指導計画や教材作成を行い、質的量的な分析をもって更なる検証を行うことを今後の課題としたい。

参考文献

- 荒川洋平・森山新 (2009) 『日本語教師のための応用認知言語学』 凡人社
- 井上永幸・赤野一郎 (編) (2013) 『ウィズダム英和辞書第3版』 三省堂
- 今田建蔵 (2014) 「日本人英語学習者の"go"に関する連語と教科書の扱い：学習者コーパスを利用した連語指導の改善に向けて」『神奈川大学大学院言語と文化論集』 第20巻, 59-73, 2014-02 神奈川大学大学院 外国語学研究科
- 佐竹由帆 (2015) 「日本人英語学習者コーパスにおける動詞・名詞コロケーションとコンビネーション」 情報学研究『Journal of informatics』 第4巻, 118-125, 2015-01 獨協大学情報学研究所
- 林田朋子 (2019a) 「多義語分析についての一考察と教育的示唆—動詞drawを例として—」『現代社会学部紀要』 17巻 1号, 83-92, 2019 長崎ウエスレヤン大学
- 福富かおる (2012) 「中学生における基本動詞

make の文法的・語彙的コロケーションについて『熊本学園大学文学・言語学論集』第19巻2号, 95-116, 2012-12-25 熊本学園大学
溝畑保之 (2006) 「効果的な語彙の導入」 門田修平・池村大一郎(編) 『英語語彙指導ハンドブック』 東京：大修館書店
文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領解説—外国語編・英語編』 東京：開隆堂出版

Altenberg, B. & Granger, S. (2001). The grammatical and lexical patterning of MAKE in native and nonnative student writing. *Applied Linguistics* 22/2, 173-194.
Azuma, M. (2005). *Metaphorical competence in an EFL context*. Tokyo: Toshindo
Langacker, R. W. (1990). *Concept, image, and symbol: The cognitive basis of grammar*. New York: Mouton de Gruyter.
Langacker, R. W. (1999). *Grammar and conceptualization*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter. 181
Littlemore, J. (2009). *Applying cognitive linguistics to second language learning and teaching*. Basingstoke: Palgrave MacMillan.

文部科学省検定済教科書
笹島準一他 (2016) 『New Horizon English Course 1～3』 東京：東京書籍
根岸雅史他 (2016) 『New Crown English Series 1～3』 東京：三省堂

オンラインコーパス
Corpus of Contemporary America, BYU corpora, <https://corpus.byu.edu/coca/>, 最終閲覧日2018年11月18日
JEFLLCコーパス, 小学館, https://scnweb.japanknowledge.com/~jefll03/jefll_top.html, 最終閲覧日2018年11月18日

¹ Nagoya Interlanguage Corpus of English (NICE) 3.0

² COCAをもちいて動詞drawのレマ [draw] を右3語以内でコロケーション検索した結果である。